

# 伊賀地域循環型社会形成推進地域計画

平成26年12月

平成28年 1月（変更報告）

平成28年 7月（変更報告）

平成29年 2月（変更承認）

平成29年 7月（変更報告）

平成30年 9月（変更承認）

令和 元年11月（変更報告）

伊 賀 市

名 張 市

伊賀南部環境衛生組合



## 目 次

1	地域の循環型社会形成を推進するための基本的な事項	1
(1)	対象地域	1
(2)	計画期間	1
(3)	基本的な方向	2
(4)	ごみ処理の広域化・施設の集約化の検討状況	3
2	循環型社会形成推進のための現状と目標	4
(1)	一般廃棄物等の処理の現状	4
(2)	生活排水の処理の現状	6
(3)	一般廃棄物等の処理の目標	8
(4)	生活排水処理の目標	12
3	施策の内容	15
(1)	発生抑制、再使用の推進	15
ア	有料化	15
イ	環境教育、普及啓発、助成	15
ウ	マイバッグ運動・レジ袋対策	15
エ	ごみ分別の推進	16
オ	生活排水対策	16
(2)	処理体制	16
ア	家庭系一般廃棄物の処理体制の現状と今後	16
イ	事業系一般廃棄物の処理体制の現状と今後	16
ウ	生活排水処理の現状と今後	19
エ	今後の処理体制の要点	19
(3)	処理施設等の整備	21
ア	廃棄物処理施設	21
イ	合併浄化槽の整備	21
(4)	施設整備に関する計画支援事業	22
(5)	その他の施策	22
ア	再生利用品の需要拡大事業	22
イ	小型家電リサイクル等に関する普及・啓発	22
ウ	粗大ごみの戸別収集	23

工	草木類の堆肥化促進	23
才	不法投棄対策	23
力	災害時の廃棄物処理に関する事項	23
4	計画のフォローアップと事後評価	23
(1)	計画のフォローアップ	23
(2)	事後評価および計画の見直し	23
様式 1	循環型社会形成推進交付金事業実施計画総括表 1 (平成 27 年度)	24
様式 2	循環型社会形成推進交付金事業実施計画総括表 2 (平成 27 年度)	28
様式 3	地域の循環型社会形成推進のための施策一覧	29
<b>添付資料 1</b>	減量化、再生利用の現状と目標 (伊賀地域)	31
<b>添付資料 2-1</b>	生活排水処理の現状と目標 (伊賀市)	32
<b>添付資料 2-2</b>	生活排水処理の現状と目標 (名張市)	33
<b>添付資料 2-3</b>	生活排水処理の現状と目標 (伊賀地域)	34
<b>添付資料 3</b>	対象地域図	35
<b>添付資料 4</b>	現有処理施設の現況 (位置図)	36
<b>添付資料 5</b>	分別区分説明資料	37
【参考資料様式 5】		38
【参考資料様式 6-1】		39
【参考資料様式 6-2】		40
【参考資料様式 7-1】		41
【参考資料様式 7-2】		42

# 伊賀地域循環型社会形成推進地域計画

伊 賀 市  
名 張 市  
伊賀南部環境衛生組合  
平成 26 年 12 月 19 日

## 1 地域の循環型社会形成を推進するための基本的な事項

### (1) 対象地域

構成市町村名：伊賀市及び名張市

面 積：687.93 km<sup>2</sup>

人 口：177,221 人<sup>※</sup>

(※：伊賀市：平成 26 年 8 月 31 日現在、名張市：平成 26 年 9 月 1 日現在)

(内訳)

市町村名	伊賀市	名張市
面積 (km <sup>2</sup> )	558.17	129.76
人口 (人)	96,048	81,173

### (2) 計画期間

本計画は、平成 27 年 4 月 1 日から令和 2 年 3 月 31 日までの 5 年間を計画期間とします。

平成 17 年度から平成 23 年度の 7 年間を計画期間とした「名張市・伊賀市地域 循環型社会形成推進地域計画」を策定していますが、今回は、伊賀市が計画している汚泥再生処理センターの施設整備に伴う計画とします。

なお、ごみ処理施設等の施設整備の計画はありませんが、ごみ処理においても減量化を含め循環型社会の実現を目指し、適切な施策等を実施することにより、減量化、再生利用に関する目標を達成するものとします。

また、目標の達成状況や社会経済情勢の変化等を踏まえ、必要な場合には計画を見直すものとします。

### (3) 基本的な方向

伊賀市と名張市で構成する「伊賀地域」は、北は滋賀県、西は京都府及び奈良県に接する三重県の北西部に位置し、大阪・名古屋両都市圏の約 80km 圏内で近畿圏と中部圏のほぼ中間にあり、大阪は約 1 時間、名古屋は約 1 時間半で結ばれています。

圏域の総人口は約 17.7 万人、毎日約 1 万 2,000 人の住民が圏域内にある両市を往来しています。

また、当地域は、古くから「伊賀の国」として一体性のある生活圏を形成してきた地域で伊賀流忍者のふるさととしても知られ、歴史文化遺産や伝統芸能が数多く残されています。

伊賀市は、平成 16 年 11 月に上野市、阿山郡伊賀町、同郡島ヶ原村、同郡阿山町、同郡大山田村、名賀郡青山町が合併しており、一般廃棄物の処理形態について、伊賀市は、青山地区を除く「旧上野市ほか 4 ヶ町村環境衛生組合」の枠組み及び、名張市と青山地区で構成する「伊賀南部環境衛生組合」でごみ及び生活排水（し尿及び浄化槽汚泥）を処理しており、合併後も従前の枠組みで処理を継続しています。

しかし、今回、伊賀市においては、既存施設の老朽化に伴い汚泥再生処理センターを整備することを機に、青山地区のし尿及び浄化槽汚泥についても伊賀市において処理する計画としました。これらの内容については、平成 25 年度に「伊賀市における廃棄物処理のあり方検討委員会」において検討し、「伊賀市における廃棄物処理のあり方検討に対する最終答申（平成 26 年 3 月）」として取りまとめられました。

なお、伊賀南部環境衛生組合のし尿処理体制から青山地区が脱退することにより、名張市は単独で処理を実施することになります。

また、ごみ処理については、当面の間、従前の枠組みで処理することとし、名張市と青山地区は「伊賀南部クリーンセンター（95 t / 24h：流動床式ガス化溶融施設）」において処理しており、本施設は、稼働後 6 年目と比較的新しい施設であることから、今後も継続的に処理するものとします。

伊賀市は、「さくらリサイクルセンター（135 t / 16h：ごみ固形燃料化施設）」において RDF 化処理していますが、本計画期間終了の翌年度である令和 2 年度末で「三重ごみ固形燃料発電所」が操業を停止する計画であることから、令和 3 年度以降のごみ処理方法等を「伊賀市における廃棄物処理のあり方検討委員会」において検討し、将来的には名張市との広域化処理が必要であるとの答申が出されました。

しかし、伊賀南部クリーンセンターの更新時期等を勘案すると、令和3度当初からの広域化処理は困難な状況であることから、広域化処理が可能な時期までの過渡的な対応として、伊賀市のごみ処理を民間委託することが望ましいとしています。

その後、平成30年7月に三重県 RDF 運営協議会総会において、令和元年9月に三重ごみ固形燃料発電所が終了することに伴い、伊賀市は令和元年8月に RDF の製造を終了し、伊賀市における廃棄物処理のあり方検討委員会の答申をふまえ、可燃ごみ処理の民間委託を開始しました。

また、策定を進めている環境基本計画において、中長期の廃棄物処理についても位置づけを行う予定です。

なお、前述したとおり、本計画は、伊賀市における汚泥再生処理センターの整備に伴うものでありますが、ごみ処理についても両市において、広域化について協議を行うとともに、適切な施策等を実施し、減量化及び資源化を推進することにより、循環型社会の形成に努めることとします。

#### (4) ごみ処理の広域化・施設の集約化の検討状況

伊賀市のごみ処理施設の維持管理については、財政的な規模効果を含めた効率的なごみの減量化・資源化及び施設整備等の検討を行う必要があるため、将来的なごみ処理については、地理的、経済・文化的要件を考慮し、名張市との広域化・集約化処理が現実的ではありますが、伊賀南部クリーンセンターは稼働後6年目であり、更新時期を迎えていないことから、今後の更新時期を好機として、広域化・集約化についての協議の場を設けることとしています。

し尿処理については、前述したとおり、青山地区分も伊賀市において処理することとしています。

## 2 循環型社会形成推進のための現状と目標

### (1) 一般廃棄物等の処理の現状

平成 25 年度における一般廃棄物（ごみ）の排出・処理状況は、図-1～図-3 のとおりです。

本地域全体の総排出量は 48,892 t、再生利用される「総資源化量」は 18,008 t であり、リサイクル率（＝（集団回収量＋直接資源化量＋RDF 化量＋処理後の再生利用量）／（ごみの総処理量＋集団回収量））としては 36.8%であります。

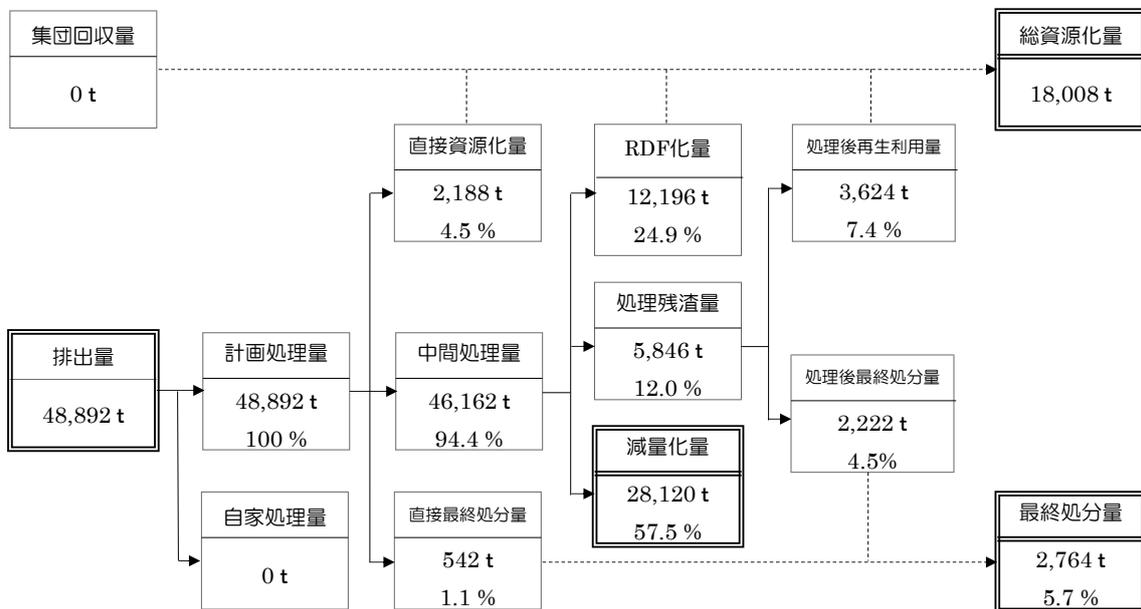
中間処理による減量化量は 28,120 t であり、排出量の 57.5%が減量化されています。

なお、中間処理に伴う資源化量（「RDF 化量」＋「処理後再生利用量」）は 15,820 t であり、排出量の 32.4%が資源化されています。

また、排出量の 5.7%にあたる 2,764 t が最終処分されています。

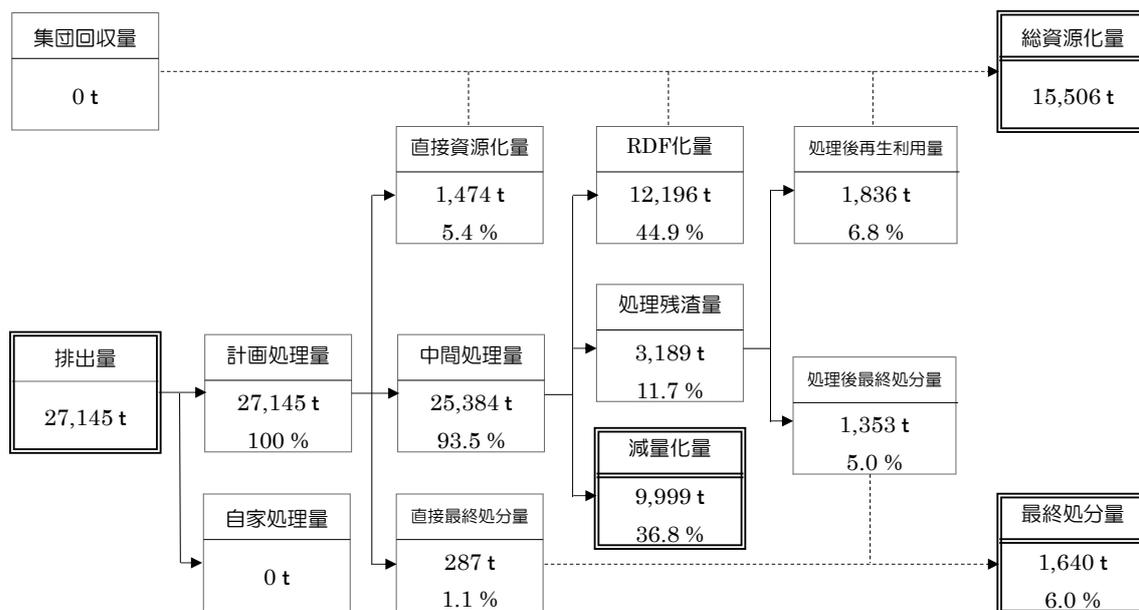
伊賀南部環境衛生組合のごみ処理施設から排出される名張市分の処理残渣は 2,657 t であり、うち、67.3%がスラグ等により再生利用されています。

伊賀市は、中間処理量の 48.0%である 12,196t が固形燃料化され、製造された RDF は「三重ごみ固形燃料発電所」で有効活用されています。



※：四捨五入しているため、合計数字が合わない場合があります。

図-1 一般廃棄物（ごみ）の処理状況フロー（伊賀地域：平成 25 年度）



※：四捨五入しているため、合計数字が合わない場合があります。

図-2 一般廃棄物（ごみ）の処理状況フロー（伊賀市：平成25年度）

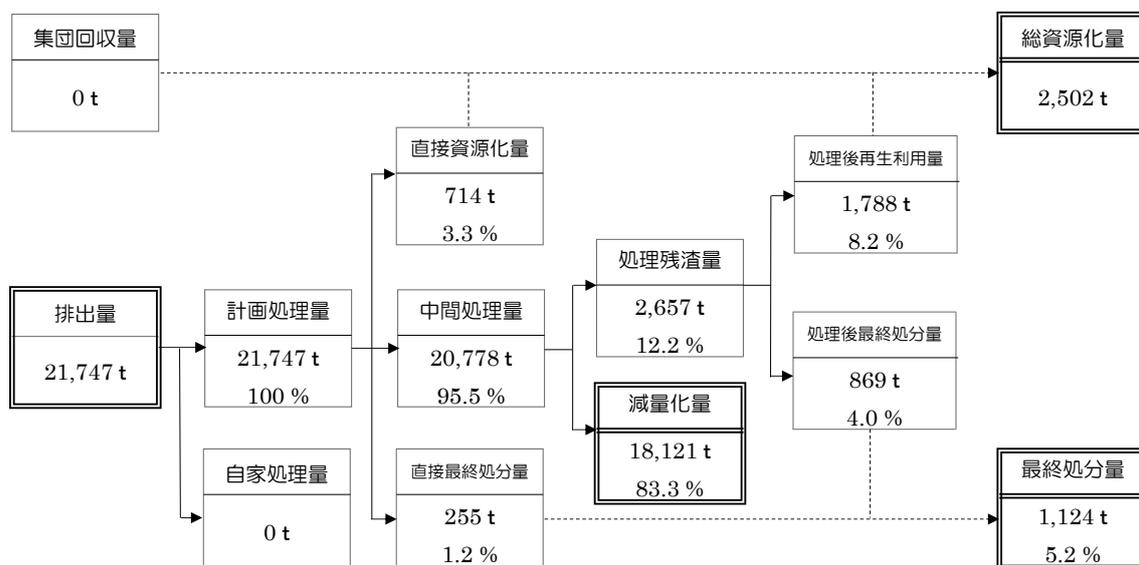


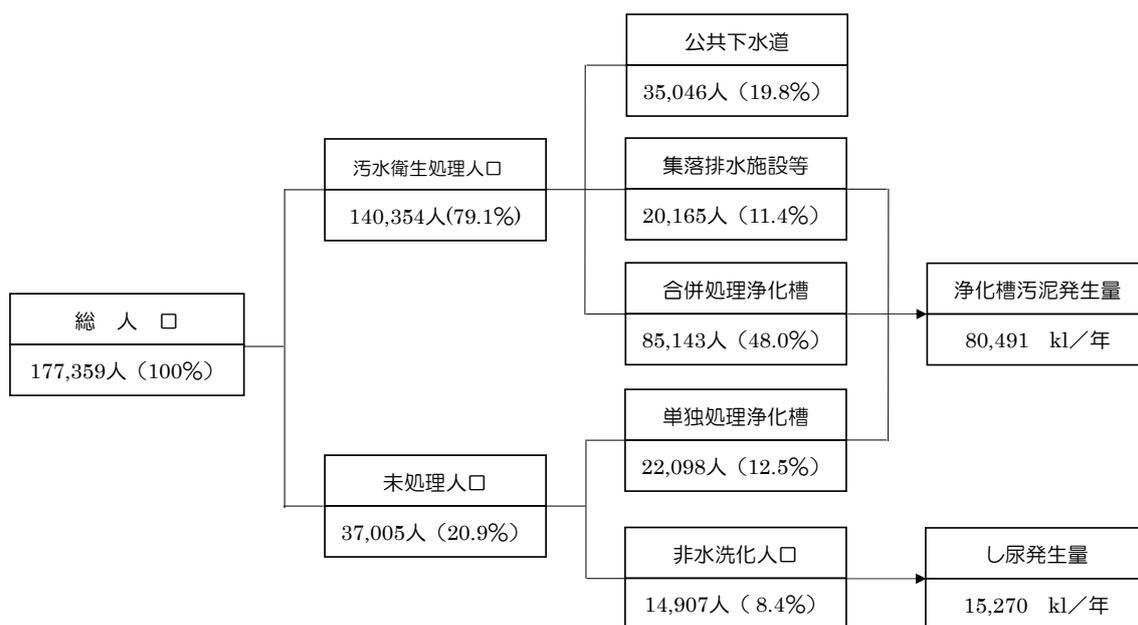
図-3 一般廃棄物（ごみ）の処理状況フロー（名張市：平成25年度）

(2) 生活排水の処理の現状

平成 25 年度における生活排水の処理状況及びし尿・浄化槽汚泥の発生量は、図-4～図-6 のとおりです。

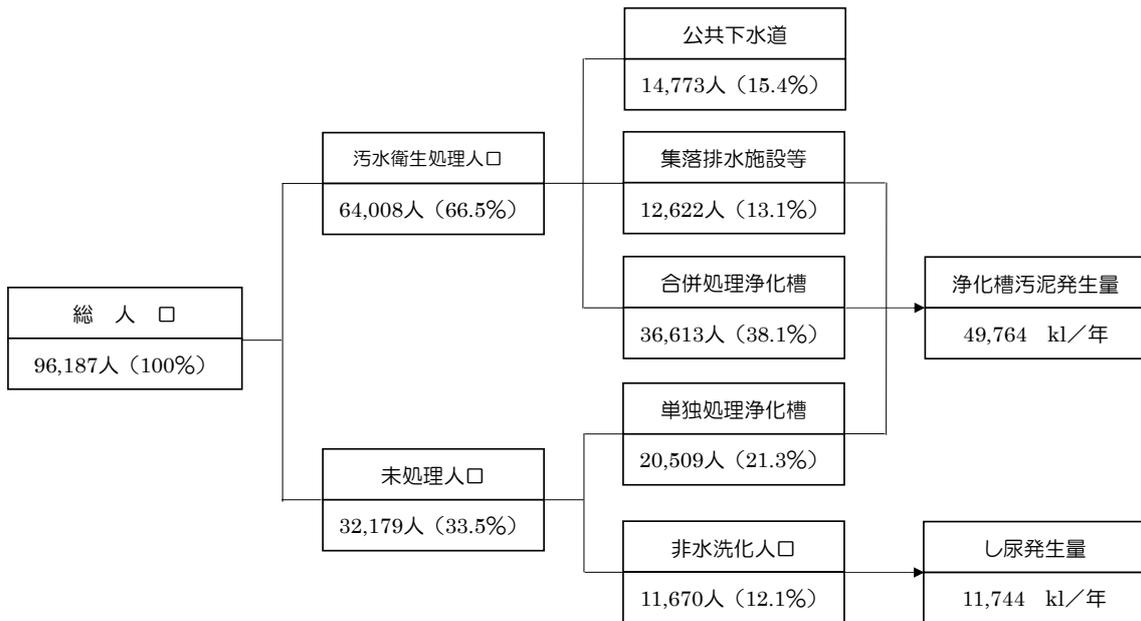
本地域全体における生活排水処理対象人口は、全体で 177,359 人であり、汚水衛生処理人口は 140,354 人、汚水衛生処理率は 79.1%です。

し尿発生量は、15,270kl/年、浄化槽汚泥発生量は 80,491kl/年、処理・処分量（＝収集・運搬量）は 95,760kl/年です。



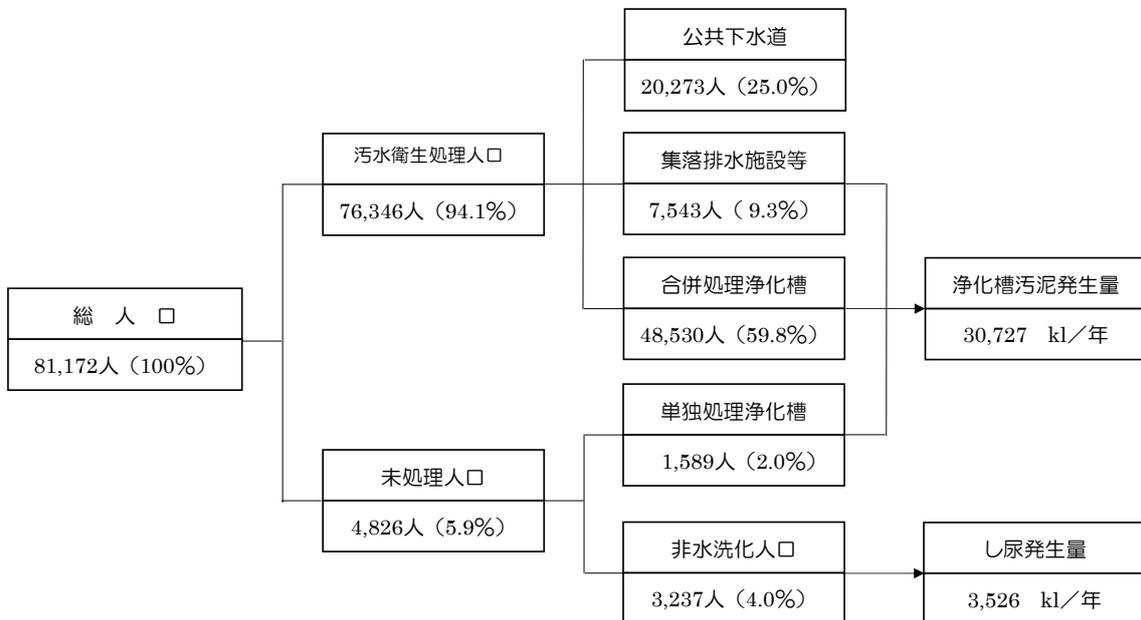
※：四捨五入しているため、合計数字が合わない場合があります。

図-4 生活排水の処理状況フロー（伊賀地域：平成 25 年度）



※：四捨五入しているため、合計数字が合わない場合があります。

図-5 生活排水の処理状況フロー（伊賀市：平成 25 年度）



※：四捨五入しているため、合計数字が合わない場合があります。

図-6 生活排水の処理状況フロー（名張市：平成 25 年度）

(3) 一般廃棄物等の処理の目標

伊賀市及び名張市において、本計画期間中における廃棄物の減量化を含め、循環型社会の実現を目指し、表-1～表-3 のとおり目標を定め、それぞれの施策に取り組んでいくものとします。

表-1 減量化、再生利用に関する現状と目標（伊賀地域）

指 標		現状(割合※1) (平成 25 年度)	目標(割合※1) (令和 2 年度)	
排 出 量	事業系	総排出量	11,065 t	10,509 t (-5.0%)
		1 事業所当たりの排出量※2	1.0 t/事業所	0.9 t/事業所(-10.0%)
	生活系	総排出量	37,827 t	34,665 t (-8.4%)
		1 人当たりの排出量 ※3	129kg/人	128kg/人 (-0.8%)
	合 計	事業系生活系排出量合計	48,892 t	45,174 t (-7.6%)
再生利用量	直接資源化量		2,188 t (4.5%)	2,424t (5.4%)
	総資源化量		18,008 t (36.8%)	16,487t (36.5%)
エネルギー回収量	エネルギー回収量(年間の発電電力量及び熱利用量)		—	—
減 量 化 量	中間処理による減量化量		28,120 t (57.5%)	26,394 t (58.4%)
最終処分量	埋立最終処分量		2,764 t (5.7%)	2,293 t (5.1%)

※1：排出量は現状に対する割合、その他は排出量に対する割合。

※2：(1 事業所あたりの排出量) = {(事業系ごみの総排出量) - (事業系ごみの資源ごみ量)} / (事業所数)

※3：(1 人あたりの排出量) = {(生活系ごみの総排出量) - (生活系ごみの資源ごみ量)} / (人口)

《用語の定義》

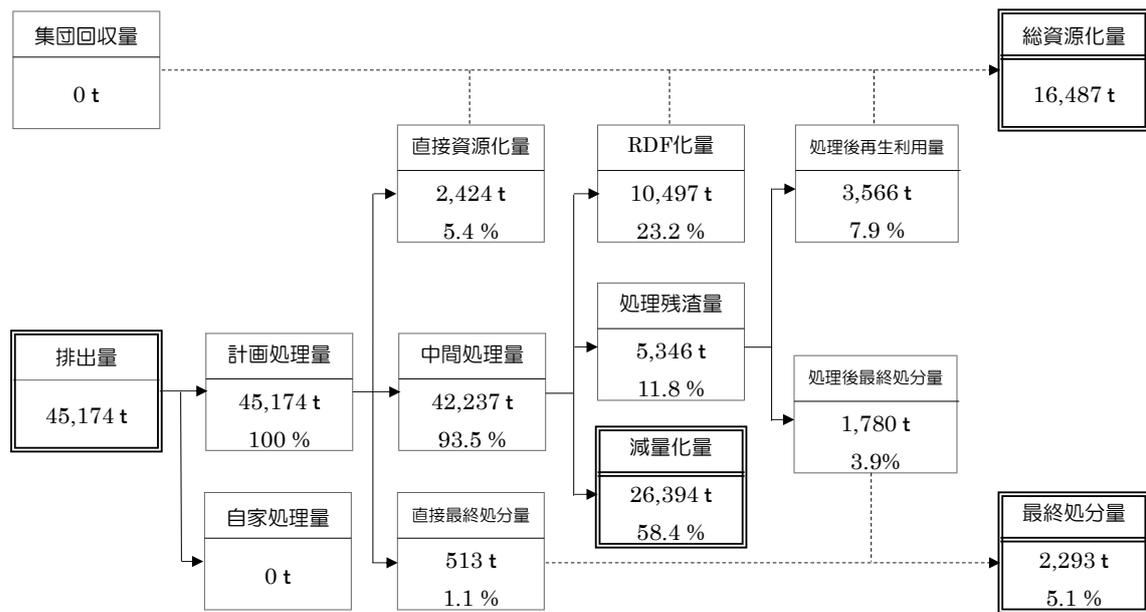
排 出 量：事業系ごみ、生活系ごみを問わず、出されたごみの量(集団回収されたごみを除く。)  
〔単位：t〕

再生利用量：集団回収量、直接資源化量、中間処理後の再生利用量の和〔単位：t〕

エネルギー回収量：エネルギー回収施設において発電された年間の発電電力量〔単位：MWh〕及び熱利用量〔単位：GJ〕

減 量 化 量：中間処理量と RDF 化量+処理残渣量の差〔単位：t〕

最終処分量：埋立処分された量〔単位：t〕



※：四捨五入しているため、合計数字が合わない場合があります。

(注) RDF 製造が終了し、伊賀市における廃棄物処理のあり方検討委員会の答申をふまえ、過年ごみ処理については民間委託を開始しました。現在環境基本計画策定を進めており、同計画へ今後のごみ処理について位置づけを行いますので、計画策定次第修正します。

図-7 目標達成時の一般廃棄物（ごみ）の処理状況フロー（伊賀地域）

表-2 減量化、再生利用に関する現状と目標（伊賀市）

指 標		現状(割合※1) (平成 25 年度)	目標(割合※1) (令和 2 年度)
排 出 量	事業系	総排出量	3,846 t
		1 事業所当たりの排出量 ※2	0.3 t/事業所
	生活系	総排出量	23,299 t
		1 人当たりの排出量 ※3	104kg/人
	合 計	事業系生活系排出量合計	27,145 t
再生利用量	直接資源化量	1,474 t (5.4%)	1,630 t (6.6%)
	総資源化量	15,506 t (57.1%)	13,863 t (56.5%)
エネルギー回収量	エネルギー回収量（年間の発電 電力量及び熱利用量）	—	—
減 量 化 量	中間処理による減量化量	9,999 t (36.8%)	9,331 t (38.0%)
最終処分量	埋立最終処分量	1,640 t (6.0%)	1,348 t (5.5%)

※1：排出量は現状に対する割合、その他は排出量に対する割合。

※2：（1 事業所あたりの排出量）＝ {(事業系ごみの総排出量) - (事業系ごみの資源ごみ量)} / (事業所数)

※3：（1 人あたりの排出量）＝ {(生活系ごみの総排出量) - (生活系ごみの資源ごみ量)} / (人口)

《用語の定義》

排 出 量：事業系ごみ、生活系ごみを問わず、出されたごみの量（集団回収されたごみを除く。）

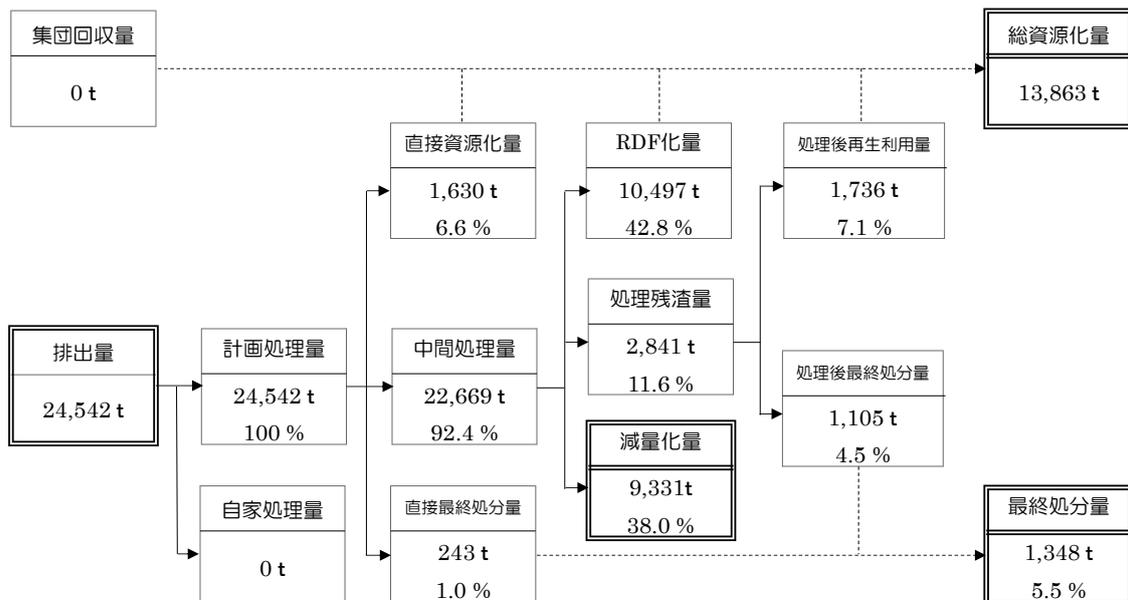
〔単位：t〕

再生利用量：集団回収量、直接資源化量、中間処理後の再生利用量の和〔単位：t〕

エネルギー回収量：エネルギー回収施設において発電された年間の発電電力量〔単位：MWh〕及び熱  
利用量〔単位：GJ〕

減 量 化 量：中間処理量と RDF 化量＋処理残渣量の差〔単位：t〕

最終処分量：埋立処分された量〔単位：t〕



(注) RDF 製造が終了し、伊賀市における廃棄物処理のあり方検討委員会の答申をふまえ、過年ごみ処理については民間委託を開始しました。現在環境基本計画策定を進めており、同計画へ今後のごみ処理について位置づけを行いますので、計画策定次第修正します。

図-8 目標達成時の一般廃棄物（ごみ）の処理状況フロー（伊賀市）

表-3 減量化、再生利用に関する現状と目標（名張市）

指 標		現状(割合※1) (平成 25 年度)	目標(割合※1) (令和 2 年度)	
排 出 量	事業系	総排出量	7,219 t	6,982 t (-3.3%)
		1 事業所当たりの排出量※2	2.0 t/事業所	1.9 t/事業所(-5.0%)
	生活系	総排出量	14,528 t	13,649 t (-6.1%)
		1 人当たりの排出量 ※3	158kg/人	157kg/人 (-0.6%)
	合 計	事業系生活系排出量合計	21,747 t	20,631 t (-5.1%)
再生利用量	直接資源化量		714 t (3.3%)	794 t (3.8%)
	総資源化量		2,502 t (11.5%)	2,624 t (12.7%)
エネルギー回収量	エネルギー回収量（年間の発電電力量及び熱利用量）		—	—
減 量 化 量	中間処理による減量化量		18,121 t (83.3%)	17,063 t (82.7%)
最終処分量	埋立最終処分量		1,124 t (5.2%)	944 t (4.6%)

※1：排出量は現状に対する割合、その他は排出量に対する割合。

※2：（1 事業所あたりの排出量）＝ {(事業系ごみの総排出量) - (事業系ごみの資源ごみ量)} / (事業所数)

※3：（1 人あたりの排出量）＝ {(生活系ごみの総排出量) - (生活系ごみの資源ごみ量)} / (人口)

《用語の定義》

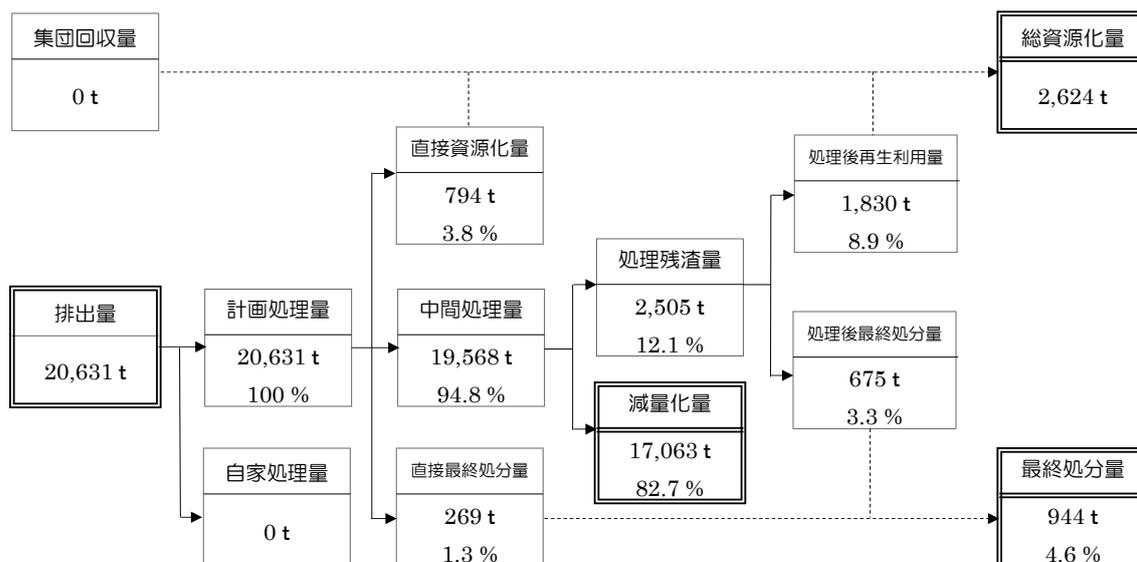
排 出 量：事業系ごみ、生活系ごみを問わず、出されたごみの量（集団回収されたごみを除く。）  
〔単位：t〕

再生利用量：集団回収量、直接資源化量、中間処理後の再生利用量の和〔単位：t〕

エネルギー回収量：エネルギー回収施設において発電された年間の発電電力量〔単位：MWh〕及び熱利用量〔単位：GJ〕

減 量 化 量：中間処理量と処理残渣量の差〔単位：t〕

最終処分量：埋立処分された量〔単位：t〕



※：四捨五入しているため、合計数字が合わない場合があります。

図-9 目標達成時の一般廃棄物（ごみ）の処理状況フロー（名張市）

(4) 生活排水処理の目標

生活排水処理については、表-4～表-6に掲げる目標のとおり、合併処理浄化槽等の整備を進めていくものとします。

表-4 生活排水処理に関する現状と目標（伊賀地域）

		平成 25 年度実績	令和 2 年度目標
処理 形態別 人口	公共下水道	35,046 人 (19.8%)	59,649 人 (36.1%)
	農業集落排水施設	19,926 人 (11.3%)	20,027 人 (12.1%)
	コミュニティ・プラント	239 人 (0.1%)	238 人 (0.1%)
	合併処理浄化槽	85,143 人 (48.0%)	54,432 人 (33.0%)
	未処理人口	37,005 人 (20.9%)	30,622 人 (18.6%)
	合計	177,359 人	164,968 人
し尿・汚泥 の量	汲み取りし尿量	15,270 kl	12,874 kl
	浄化槽汚泥量	80,491 kl	61,362 kl
	合計	95,761 kl	74,236 kl

※：四捨五入しているため、合計数字が合わない場合があります。

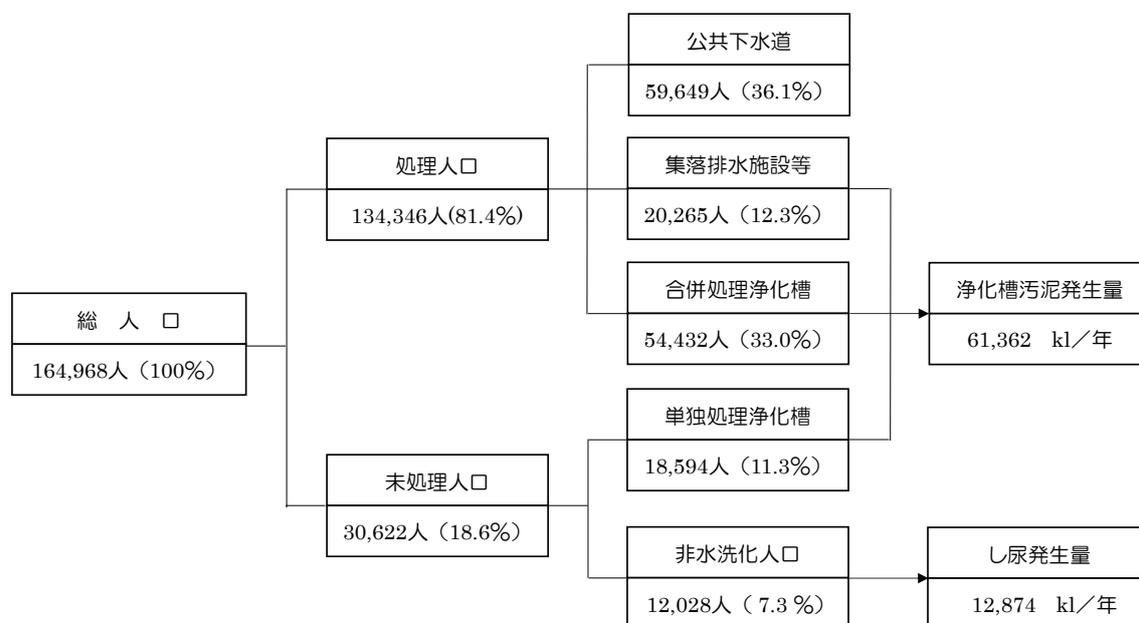


図-10 目標達成時の生活排水の処理状況フロー（伊賀地域：令和2年度）

表-5 生活排水処理に関する現状と目標（伊賀市）

		平成 25 年度実績	令和 2 年度目標
処理 形態別 人口	公共下水道	14,773 人 (15.4%)	14,017 人 (15.7%)
	農業集落排水施設	12,414 人 (12.9%)	11,739 人 (13.2%)
	コミュニティ・プラント	208 人 ( 0.2%)	207 人 ( 0.2%)
	合併処理浄化槽	36,613 人 (38.1%)	35,304 人 (39.7%)
	未処理人口	32,179 人 (33.5%)	27,733 人 (31.2%)
	合計	96,187 人	89,000 人
し尿・汚泥 の量	汲み取りし尿量	11,744 kl	10,731 kl
	浄化槽汚泥量	49,764 kl	46,246 kl
	合計	61,508 kl	56,977 kl

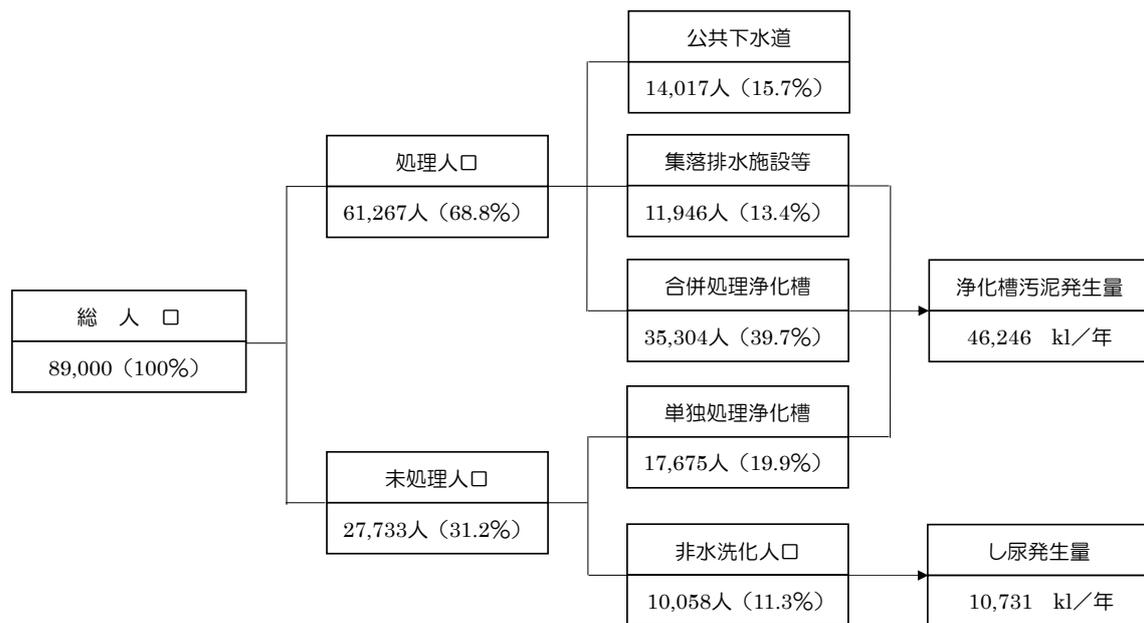
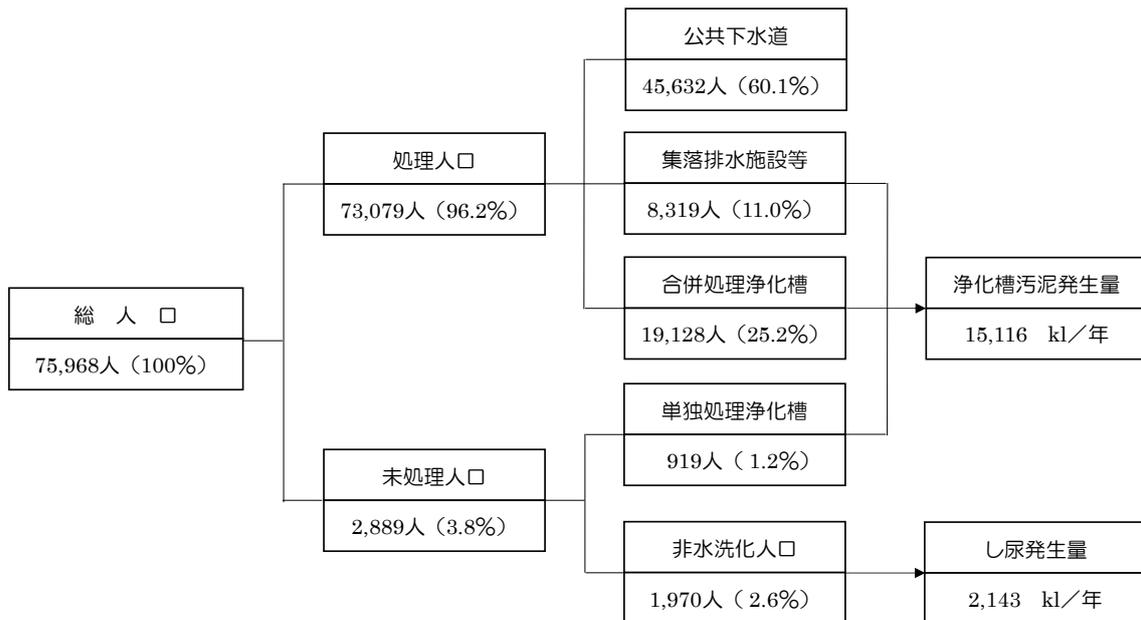


図-11 目標達成時の生活排水の処理状況フロー（伊賀市：令和 2 年度）

表-6 生活排水処理に関する現状と目標（名張市）

		平成 25 年度実績	令和 2 年度目標
処理 形態別 人口	公共下水道	20,273 人 (25.0%)	45,632 人 (60.1%)
	農業集落排水施設	7,512 人 (9.3%)	8,288 人 (11.0%)
	コミュニティ・プラント	31 人 (0.0%)	31 人 (0.0%)
	合併処理浄化槽	48,530 人 (59.8%)	19,128 人 (25.2%)
	未処理人口	4,826 人 (5.9%)	2,889 人 (3.8%)
	合計	81,172 人	75,968 人
し尿・汚 泥の量	汲み取りし尿量	3,526 kl	2,143 kl
	浄化槽汚泥量	30,727 kl	15,116 kl
	合計	34,253 kl	17,259 kl



※：四捨五入しているため、合計数字が合わない場合があります。

図-12 目標達成時の生活排水の処理状況フロー（名張市：令和2年度）

### 3 施策の内容

#### (1) 発生抑制、再使用の推進

##### ア 有料化

生活系ごみの有料化として、名張市は平成 20 年 4 月 1 日、伊賀市は平成 19 年 1 月 1 日からごみの減量化・資源化を目的に指定ごみ袋の有料化を実施しております。伊賀市においては、平成 26 年 10 月 1 日に指定ごみ袋の値上げを行い、更なる減量化を推進しています。

事業系ごみの処理手数料については、両市において従量制により課金し、直接納入方式により徴収していますが、今後ごみの発生抑制の観点から処理手数料のあり方について検討を行っていきます。

##### イ 環境教育、普及啓発、助成

住民自治協議会、自治会及び地域づくり組織などの地域単位の活動や学校での学習会の場を活用して、ごみの減量化、リサイクルの推進等の普及啓発活動を推進していきます。

また、学校行事等でのごみ処理施設の見学時には、ごみ処理の現状、リサイクルの仕組み等の説明を実施し、環境教育に努めていきます。

家庭内のごみの減量化を目的として、生ごみ処理容器等の購入に対して助成を継続的に行っていきます。

事業者に対しても、発生抑制及び再生利用の啓発を行っていきます。

##### ウ マイバッグ運動・レジ袋対策

買い物際には「マイバッグ」を持参し、なるべく「レジ袋」をもらわないよう住民へ呼びかけています。

今後も地域内のスーパーや商店等に向けて、レジ袋削減につながる取組（レジ袋の有料化等）を推進していきます。

## エ ごみ分別の推進

伊賀市ごみ減量・リサイクル等推進委員会において、ごみ分別の見直しを進めます。また、「資源・ごみ分別ガイドブック」をより分かりやすく改訂して、ごみ減量を進めます。

## オ 生活排水対策

下水道計画に基づき公共下水道等の整備を推進するものとします。

なお、現在、両市において下水道計画の見直しを実施しており、新規計画に沿った生活排水対策を実施していきます。

また、公共下水道等の整備区域外の地域においては、単独処理浄化槽及びし尿汲み取りから合併処理浄化槽への転換を積極的に進めながら、住民の水質改善意識の高揚に向けて啓発を進めていきます。

## (2) 処理体制

### ア 生活系ごみの処理体制の現状と今後

分別区分及び処理方法については、表 7～8 に示したとおりです。

本地域のごみについては、1(3)において前述したとおり、当面の間、従前の枠組みで処理することとします。

また、ごみの収集・運搬については、民間委託により実施し、経済的かつ効率的な収集・運搬体制を構築します。

### イ 事業系ごみの処理体制の現状と今後

事業系ごみについては、事業所自らが各市の施設に搬入するか、または許可業者に依頼して搬入しており、今後も同様な体制を継続していきます。

今後も、循環型社会の形成に向けて事業者に対し、発生抑制及び再生利用の啓発を行っていきます。

表-7 伊賀市（青山地区除く）の家庭ごみの分別区分と処理方法の現状と今後

伊賀市（青山地区を除く） 現状（平成25年度）								
分別区分	処理方法	処理施設等	処理実績					
可燃ごみ	リサイクル (RDF化)	さくらリサイクルセンター (RDF化)	22,528 t					
不燃ごみ	埋立	不燃物処理場	870 t					
粗大ごみ	リサイクル (破碎・選別) (再生利用)	さくらリサイクルセンター (資源化ごみ処理施設)	200 t					
資源ごみ	容器包装プラスチック	リサイクル (再資源化)	さくらリサイクルセンター (資源化ごみ処理施設)	2,033 t				
	びん類							
	金属類							
	ペットボトル							
	アルミ缶	リサイクル (再資源化)	さくらリサイクルセンター (資源化ごみ処理施設)	(売却)	1,982 t			
	アルミ缶							
	埋立ごみ					埋立	民間委託	395 t
	紙・布類					リサイクル (再資源化)	ストックヤード	1,106 t
廃食油	リサイクル (再資源化)	売却	13 t					



伊賀市（青山地区を除く） 今後（令和2年度）								
分別区分	処理方法	処理施設等		処理目標				
		一次処理	二次処理					
可燃ごみ	民間委託	民間委託		20,188 t				
不燃ごみ	埋立	不燃物処理場		672 t				
粗大ごみ	リサイクル (破碎・選別) (再生利用)	さくらリサイクルセンター (資源化ごみ処理施設)	民間 (売却)	172 t				
資源ごみ	容器包装プラスチック	リサイクル (再資源化)	さくらリサイクルセンター (資源化ごみ処理施設)	(売却)	1,982 t			
	びん類							
	金属類							
	ペットボトル							
	アルミ缶	リサイクル (再資源化)	さくらリサイクルセンター (資源化ごみ処理施設)	(売却)	1,130 t			
	アルミ缶							
	埋立ごみ					埋立	民間委託	385 t
	紙・布類					リサイクル (再資源化)	ストックヤード	1,130 t
廃食油	リサイクル (再資源化)	売却	13 t					

(注) RDF 製造が終了し、伊賀市における廃棄物処理のあり方検討委員会の答申をふまえ、過年ごみ処理については民間委託を開始しました。現在環境基本計画策定を進めており、同計画へ今後のごみ処理について位置づけを行いますので、計画策定次第修正します。

表-8 名張市・伊賀市（青山地区）の家庭ごみの分別区分と処理方法の現状と今後

名張市・伊賀市（青山地区） 現状（平成25年度）					
分別区分	処理方法	処理施設等	処理実績		
				燃やすごみ	焼却 (熱回収)
燃やさないごみ	リサイクル (破碎・選別)	伊賀南部クリーンセンター リサイクル処理施設	1,960 t		
粗大ごみ	リサイクル (破碎・選別) (再生利用)	伊賀南部クリーンセンター リサイクル処理施設	1,065 t		
資源ごみ	びん類	リサイクル (再資源化)	伊賀南部クリーンセンター リサイクル処理施設	1,636 t	
	缶類				
	ペットボトル				
	白色トレイ				
	容器包装プラスチック				
	紙類	リサイクル (再資源化)	伊賀南部ストックヤード		532 t
	繊維類				
	廃食油	リサイクル (再資源化)	民間委託又は売却		45 t
体温計・蛍光管・乾電池・金属類等					



名張市・伊賀市（青山地区） 今後（令和2年度）						
分別区分	処理方法	処理施設等		処理目標		
		一次処理	二次処理			
燃やすごみ	焼却 (熱回収)	伊賀南部クリーンセンター 焼却処理施設	民間 (リサイクル,埋立)	15,675 t		
燃やさないごみ	リサイクル (破碎・選別)	伊賀南部クリーンセンター リサイクル処理施設	民間 (売却)	1,855 t		
粗大ごみ	リサイクル (破碎・選別) (再生利用)	伊賀南部クリーンセンター リサイクル処理施設	民間 (売却)	875 t		
資源ごみ	びん類	リサイクル (再資源化)	伊賀南部クリーンセンター リサイクル処理施設	1,646 t		
	缶類					
	ペットボトル					
	白色トレイ					
	容器包装プラスチック					
	紙類	リサイクル (再資源化)	伊賀南部ストックヤード		民間 (売却)	535 t
	繊維類					
	廃食油	リサイクル (再資源化)	民間委託又は売却			45 t
体温計・蛍光管・乾電池・金属類等						

## ウ 生活排水処理の現状と今後

生活排水の処理については、引き続き、公共下水道や農業集落排水施設が整備されていない地区並びに生活排水処理を緊急に促進する必要がある山村振興法に規定する地域等において、個人設置型並びに市町村設置型の合併処理浄化槽を整備し、適正な維持管理が図られるよう努めていきます。

また、図-13 に示したとおり、青山地区のし尿・浄化槽汚泥も本計画において整備予定である（仮称）伊賀市汚泥再生処理センターにおいて処理する計画であることから、効率的な収集・運搬体制を構築するとともに、「農業集落排水事業」等から排出される汚泥（有機性廃棄物）を併せて処理し、リン回収を実施することにより、循環型社会の構築を目指します。

なお、施設整備計画については、下水道計画との整合を図ります。

## エ 今後の処理体制の要点

- ごみについては、当面は現状の枠組みでの処理としますが、既存処理方法である焼却処理（ガス化）を行い、処理残渣の再資源化を推進していきます。
- 事業系ごみについては、今後も継続的に事業者に対して発生抑制及び再生利用の啓発を行います。
- 青山地区を含む伊賀市において、し尿、浄化槽汚泥、コミュニティ・プラント汚泥及び農業集落排水汚泥を処理し、リン回収を実施し資源化を行います。
- 公共用水域の水質保全を目指し、公共下水道や合併処理浄化槽の整備を進めます。
- し尿処理の施設整備計画については、下水道計画との整合を図ります。

現 状（平成25年度）

市名	区分	処理施設等	し尿・浄化槽汚泥処理実績	
伊賀市 (青山地区除く)	し尿	伊賀市 浄化センター	し尿	10,800 kL/年
	浄化槽汚泥等		浄化槽汚泥等	43,749 kL/年
名張市	し尿	伊賀南部 浄化センター	し尿	3,526 kL/年
	浄化槽汚泥等		浄化槽汚泥等	30,727 kL/年
伊賀市 (青山地区)	し尿	伊賀南部 浄化センター	し尿	944 kL/年
	浄化槽汚泥等		浄化槽汚泥等	6,015 kL/年



今 後（令和2年度）

市名	区分	処理施設等	し尿・浄化槽汚泥処理見込	
伊賀市 (青山地区含む)	し尿	（仮称）伊賀市 汚泥再生処理センター	し尿	10,731 kL/年
	浄化槽汚泥等		浄化槽汚泥等	46,246 kL/年
名張市	し尿	伊賀南部 浄化センター	し尿	2,143 kL/年
	浄化槽汚泥等		浄化槽汚泥等	15,116 kL/年

本計画において整備予定施設

図-13 し尿・浄化槽汚泥処理の現状と今後

(3) 処理施設等の整備

ア 廃棄物処理施設

上記(2)の図-13 で示した処理体制で処理を行うため、表-9 のとおり必要な施設整備を行います。

表 9 整備する処理施設

事業番号	整備施設種類	事業名	処理能力	設置予定地	事業期間
1	有機性廃棄物 リサイクル推進施設	(仮称)伊賀市汚泥再生 処理センター整備事業	170kL/日	伊賀市長田 4617	平成 29～ 令和元年度

※現有処理施設の現況を添付資料 4 として添付します。

(整備理由)

事業番号 1: 既存し尿処理施設の老朽化及び搬入物性状の変化に伴い適正処理が困難化しているため、適正処理を実施するとともに、有機性廃棄物の有効利用を図る。

イ 合併浄化槽の整備

合併処理浄化槽の整備については、表-10 のとおり行います。

表-10 合併処理浄化槽への移行計画

事業番号	事業	事業主体	直近の 整備済基数 (平成 25 年度)	整備計画 基数	整備計画 人口	事業期間
2	浄化槽設置 整備事業※	名張市	15 基	200 基	760 人	平成 24～ 令和元年度
3	浄化槽市町村 整備推進事業	名張市	—	57 基	114 人	平成 26～ 27 年度

注：本地域計画においては、上記事業期間のうち、事業番号 2 は平成 27 年度から平成 31 年度、事業番号 3 は平成 27 年度を示します。

※個人が設置する浄化槽補助事業を示します。

(整備理由)

事業番号 2: 名張市の公共下水道、農業集落排水施設及び市町村設置型浄化槽の整備対象地域以外において、合併浄化槽の設置を推進する。

事業番号 3: 山村振興法第 7 条第 1 項に規定する振興地区である名張市国津地域において、合併処理浄化槽の設置を推進する。

(4) 施設整備に関する計画支援事業

(3)の施設整備に先立ち、表-11 のとおり計画支援事業を行います。

表-11 実施する計画支援事業

事業番号	事業名	事業内容	事業期間
31	(仮称)伊賀市汚泥再生処理センター整備に係る測量・地質調査事業	測量・地質調査等	平成 27 年度
	(仮称)伊賀市汚泥再生処理センター整備に係る施設基本設計等調査事業	施設基本設計等	平成 27 年度
	(仮称)伊賀市汚泥再生処理センター整備に係る生活環境影響調査事業	生活環境影響調査	平成 27 年度
	(仮称)伊賀市汚泥再生処理センター整備に係る発注仕様書等作成事業	発注仕様書等	平成 28 年度 ～ 平成 29 年度

(5) その他の施策

その他、地域の循環型社会の形成を図るため、次の施策を実施していきます。

ア 再生利用品の需要拡大事業

伊賀南部クリーンセンターから排出される溶融スラグについては、コンクリート2次製品の原料としての再利用を促進するとともに、当該地域で実施される公共工事等での積極活用についても検討します。

また、新たに整備する「(仮称)伊賀市汚泥再生処理センター」において回収した「リン」の利用先を確保し、循環型社会の推進に努めます。

イ 廃家電・使用済み小型家電のリサイクルに関する普及啓発

「小型家電リサイクル法」に基づき、公共施設等（市役所、地区市民センター等）に専用の回収ボックスを設置し、拠点収集を実施することにより、リサイクルの推進に努めます。

また、家電 4 品目については、「家電リサイクル法及び小型家電リサイクル法」に基づく事業者による適正な回収、再商品化がなされるよう、広報等を通じて、普及啓発に努めます。

#### ウ 粗大ごみの戸別収集

指定取扱店で「粗大ごみ処理券」を購入することにより、粗大ごみの戸別収集を実施し、再生利用を推進します。

また、伊賀市においては、高齢者及び障害者手帳を保持している人、介護認定を受けている人で構成される世帯に限り、福祉収集（無料）サービスを実施し、適切な収集、再生利用を推進します。

#### エ 草木類の堆肥化促進

草刈業務等により発生した草木類の自主的な堆肥化処理を促進します。

#### オ 不法投棄対策

豊かな自然と快適な生活環境を守るために、多様化・悪質化する廃棄物の不法投棄の撲滅に向けて、地域住民や関係機関と連携して不法投棄監視体制（パトロールや監視カメラ等）を強化するとともに、防止に向けた啓発活動を行います。

#### カ 災害時の廃棄物処理に関する事項

地域防災計画に基づき、災害廃棄物処理計画の策定を進めていきます。

また、特に甚大な災害が発生し、各市のみで対応できない状況下においては、「三重県災害等廃棄物処理応援協定」に基づき、県内市町との連携体制を構築していきます。

## 4 計画のフォローアップと事後評価

### (1) 計画のフォローアップ

両市は、毎年、計画の進捗状況を把握し、その結果を公表するとともに、必要に応じて、両市、三重県及び国と意見交換をしつつ、計画の進捗状況を勘案し、計画の見直しを実施します。

### (2) 事後評価および計画の見直し

計画期間終了後、処理状況の把握を行い、結果が取りまとまった時点で、速やかに計画の事後評価、目標達成状況の評価を実施します。

また、評価結果を公表するとともに、次期計画策定に反映させるものとします。

なお、計画の進捗状況や社会経済情勢の変化等を踏まえ、必要に応じて計画を見直すものとします。



## 【循環型社会形成推進地域計画添付書類一覧】

- 様式1 循環型社会形成推進交付金等事業実施計画総括表1
- 様式2 循環型社会形成推進交付金等事業実施計画総括表2
- 様式3 地域の循環型社会形成推進のための施策一覧

添付資料1 減量化、再生利用の現状と目標（伊賀地域）

添付資料2-1 生活排水処理の現状と目標（伊賀市）

添付資料2-2 生活排水処理の現状と目標（名張市）

添付資料2-3 生活排水処理の現状と目標（伊賀地域）

添付資料3 対象地域図

添付資料4 現有処理施設の現況（位置図）

添付資料5 分別区分説明資料

【参考資料様式5】施設概要（し尿処理施設系）

【参考資料様式6-1】施設概要（浄化槽系）

【参考資料様式6-2】施設概要（浄化槽系）

【参考資料様式7-1】計画支援概要

【参考資料様式7-2】計画支援概要



様式 1

循環型社会形成推進交付金等事業実施計画総括表 1 (平成 27 年度)

1 地域の概要

(1)地域名	伊賀地域	(2)地域内人口	177,221 人	(3)地域面積	687.93km <sup>3</sup>
(4)構成市町村等名	伊賀市、名張市及び伊賀南部環境衛生組合	(5)地域の要件	人口、面積		
(6)構成市町村に一部事務組合等が含まれる場合、当該組合の状況	①組合を構成する市町村：伊賀市及び名張市 ③設立されていない場合、今後の見通し：		②設立年月日：昭和 45 年 10 月 1 日設立		

2 減量化、再生利用の現状と目標

指標・単位		年	過去の状況・現状（排出量に対する割合）					目 標
			平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	令和 2 年度
排 出 量	事業系	総排出量(t)	10,958	9,641	10,263	10,836	11,065	10,509 (H25比-5.0%)
		1事業所あたりの排出量 t/事業所)	0.9	0.8	0.9	0.9	1.0	0.9 (H25比-10.0%)
	生活系	総排出量(t)	39,173	38,498	38,488	38,220	37,827	34,665 (H25比-8.4%)
		1人あたりの排出量(kg/人)	128	127	131	128	129	128 (H25比-0.8%)
	合 計	事業系生活系排出量合計(t)	50,131	48,139	48,751	49,056	48,892	45,174 (H25比-7.6%)
再生利用量	直接資源化量(t)		3,899 (7.8%)	3,157 (6.6%)	2,635 (5.4%)	2,490 (5.1%)	2,188 (4.5%)	2,424 (5.4%)
	総資源化量(t)		21,173(42.2%)	19,004(39.5%)	18,348(37.6%)	18,448(37.6%)	18,008(36.8%)	16,487 (36.5%)
エネルギー回収量	エネルギー回収量(年間の発電電力量 MWh)		—	—	—	—	—	—
中間処理による減量化量	減量化量(中間処理前後の差 t)		28,039(55.9%)	26,222(54.5%)	28,039(57.5%)	27,957(57.0%)	28,120(57.5%)	26,394 (58.4%)
最終処分量	埋立最終処分量(t)		2,317 (4.6%)	2,913 (6.1%)	2,364 (4.8%)	2,651 (5.4%)	2,764 (5.7%)	2,293 (5.1%)

※：資料として指標と人口等の要因に関するトレンドグラフを添付します。(添付資料 1)

3 現有施設の状況と更新、廃止、新設の予定年月日

施設種別	事業主体	現有施設の内容				更新、廃止、新設の内容						
		型式及び 処理方法	補助 の有無	処理能力	開始年月	更新,廃止 年月	更新,廃止, 施設理由	型式及び 処理方法	施設竣工 予定年月	処理能力	備考	
固形燃料化 施設	伊賀市	RDF 化处理	有	135t/16h	H14.12							継続利用
リサイクルプラザ		併用式 (破碎・選別)	有	17.3t/5h	H22.6							継続利用
ストックヤード		ストックヤード	有	屋内:608m <sup>2</sup> 屋外:1285m <sup>2</sup>	H21.6							継続利用
最終処分場		安定型	有	S: 40,610m <sup>2</sup> V:150,000m <sup>3</sup>	S52.4							継続利用
し尿処理施設		標準脱窒素	有	80kL/日	S59.10	R2.3	老朽化 及び 能力低下	浄化槽対 応型脱窒 素処理	R2.3	170kL/日	施設	
	高負荷脱窒素	有	70kL/日	H8.4								
エネルギー 回収推進施設	伊賀南部 環境衛生 組合	流動床式 ガス化溶融炉	有	95t/24h	H21.2							継続利用
マテリアルリサイクル 推進施設		併用式 (破碎・選別)	有	45.5t/5h	H21.2							継続利用
ストックヤード		ストックヤード	有	屋内:570m <sup>2</sup> 屋外:695m <sup>2</sup>	H24.2							継続利用
最終処分場		管理型	有	S: 24,854m <sup>2</sup> V:190,630m <sup>3</sup>	H8.3							継続利用
し尿処理施設		標準脱窒素	有	123kL/日	S60.2							継続利用

※：資料として計画地域内の現有施設の現況を地図上に示したものを添付します。(添付資料4)

#### 4-1 生活排水処理の現状と目標（伊賀市）

指標・単位		過去の状況・現状					目標
		平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	令和 2 年度
総人口		95,718 人	94,907 人	94,130 人	97,190 人	96,187 人	89,000 人
公共下水道	汚水衛生処理人口	13,303 人	14,048 人	14,722 人	14,741 人	14,773 人	14,017 人
	汚水衛生処理率	13.9%	14.8%	15.6%	15.2%	15.4%	15.7%
集落排水施設等	汚水衛生処理人口	11,912 人	11,777 人	11,658 人	12,255 人	12,622 人	11,946 人
	汚水衛生処理率	12.4%	12.4%	12.4%	12.6%	13.1%	13.4%
合併処理浄化槽	汚水衛生処理人口	33,776 人	34,331 人	35,213 人	36,215 人	36,613 人	35,304 人
	汚水衛生処理率	35.3%	36.2%	37.4%	37.3%	38.1%	39.7%
未処理人口		36,727 人	34,751 人	32,537 人	33,979 人	32,179 人	27,733 人
		38.4%	36.6%	34.6%	35.0%	33.5%	31.2%

※1：四捨五入しているため、合計数字が合わない場合があります。

※2：資料として指標と人口等の要因に関するトレンドグラフを添付します。（添付資料2-1）

#### 4-2 生活排水処理の現状と目標（名張市）

指標・単位		過去の状況・現状					目標
		平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	令和 2 年度
総人口		82,893 人	82,464 人	82,280 人	81,760 人	81,172 人	75,968 人
公共下水道	汚水衛生処理人口	11,778 人	12,166 人	12,933 人	14,366 人	20,273 人	45,632 人
	汚水衛生処理率	14.2%	14.8%	15.7%	17.6%	25.0%	60.1%
集落排水施設等	汚水衛生処理人口	6,900 人	6,824 人	6,823 人	7,328 人	7,543 人	8,319 人
	汚水衛生処理率	8.3%	8.3%	8.3%	9.0%	9.3%	11.0%
合併処理浄化槽	汚水衛生処理人口	55,665 人	55,067 人	54,023 人	54,542 人	48,530 人	19,128 人
	汚水衛生処理率	67.2%	66.8%	65.7%	66.7%	59.8%	25.2%
未処理人口		8,550 人	8,407 人	8,501 人	5,524 人	4,826 人	2,889 人
		10.3%	10.2%	10.3%	6.8%	5.9%	3.8%

※1：四捨五入しているため、合計数字が合わない場合があります。

※2：資料として指標と人口等の要因に関するトレンドグラフを添付します。（添付資料2-2）

#### 4-3 生活排水処理の現状と目標（伊賀地域）

指標・単位		過去の状況・現状					目標
		平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	令和 2 年度
総人口		178,611 人	177,371 人	176,410 人	178,950 人	177,359 人	164,968 人
公共下水道	汚水衛生処理人口	25,081 人	26,214 人	27,655 人	29,107 人	35,046 人	59,649 人
	汚水衛生処理率	14.0%	14.8%	15.7%	16.3%	19.8%	36.2%
集落排水施設等	汚水衛生処理人口	18,812 人	18,601 人	18,481 人	19,583 人	20,165 人	20,265 人
	汚水衛生処理率	10.5%	10.5%	10.5%	10.9%	11.4%	12.3%
合併処理浄化槽	汚水衛生処理人口	89,441 人	89,398 人	89,236 人	90,757 人	85,143 人	54,432 人
	汚水衛生処理率	50.1%	50.4%	50.6%	50.7%	48.0%	33.0%
未処理人口		45,277 人 25.3%	43,158 人 24.3%	41,038 人 23.3%	39,503 人 22.1%	37,005 人 20.9%	30,622 人 18.6%

※1：四捨五入しているため、合計数字が合わない場合があります。

※2：資料として指標と人口等の要因に関するトレンドグラフを添付します。（添付資料2-3）

#### 5 浄化槽の整備の状況と更新、廃止、新規の予定

施設種別	事業主体	現有施設の内容			整備予定基数の内容			備考
		基数	処理人口	開始年月	基数	処理人口	目標年次	
浄化槽設置整備事業	名張市	182 基	169 人	H17.4	200 基	760 人	令和 2 年度	
浄化槽市町村整備推進事業	名張市	75 基	231 人	H20.4	57 基	114 人	平成 28 年度	

循環型社会形成推進交付金等事業実施計画総括表2（平成27年度）

事業種別	事業番号	事業主体名称	規模		事業期間 交付期間		総事業費（千円）					交付対象事業費（千円）					備考			
			単位		開始	終了	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度				
○し尿処理に関する事業							3,989,063	0	0	42,217	1,601,029	2,295,817	2,963,933	0	0	12,777	1,814,809	1,636,347		
汚泥再生処理センター整備	1	伊賀市	170	kL/日	H29	R元	3,939,063	0	0	42,217	1,601,029	2,295,817	2,963,933	0	0	12,777	1,314,809	1,636,347		
○浄化槽に関する事業							52,300	33,700	4,650	4,650	4,650	4,650	52,300	33,700	4,650	4,650	4,650	4,650	4,650	
浄化槽設置整備事業	2	名張市	125	基	H27	R元	23,250	4,650	4,650	4,650	4,650	4,650	23,250	4,650	4,650	4,650	4,650	4,650	4,650	
浄化槽市町村整備推進事業	3	名張市	126	基	H27	H27	29,050	29,050	0	0	0	0	29,050	29,050	0	0	0	0	0	
○施設整備に関する計画支援に関する事業							37,373	27,668	7,208	2,497	0	0	37,373	27,668	7,208	2,497	0	0		
測量・地質調査事業	31	伊賀市	1	式	H27	H27	3,476	3,476	0	0	0	0	3,476	3,476	0	0	0	0	0	
施設基本設計等調査事業		伊賀市	1	式	H27	H27	7,517	7,517	0	0	0	0	7,517	7,517	0	0	0	0	0	
生活環境影響調査事業		伊賀市	1	式	H27	H27	16,675	16,675	0	0	0	0	16,675	16,675	0	0	0	0	0	
発注仕様書等作成事業		伊賀市	1	式	H28	H29	9,705	0	7,208	2,497	0	0	9,705	0	7,208	2,497	0	0	0	
合計							4,028,736	61,368	11,858	49,364	1,605,679	2,300,467	3,053,606	61,368	11,858	19,924	1,319,459	1,640,997		

【参考】平成24年度～平成26年度 総括表（生活排水処理計画をもって事業実施）

事業種別	事業番号	事業主体名称	規模		事業期間 交付期間		総事業費（千円）					交付対象事業費（千円）					備考			
			単位		開始	終了	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度			平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度						
○浄化槽に関する事業							34,622	3,750	3,750	27,122			34,622	3,750	3,750	27,122				
浄化槽設置整備事業	2	名張市	75	基	H24	H26	12,150	3,750	3,750	4,650			12,150	3,750	3,750	4,650				
浄化槽市町村整備推進事業	3	名張市	25	基	H26	H26	22,472	-	-	22,472			22,472	-	-	22,472				

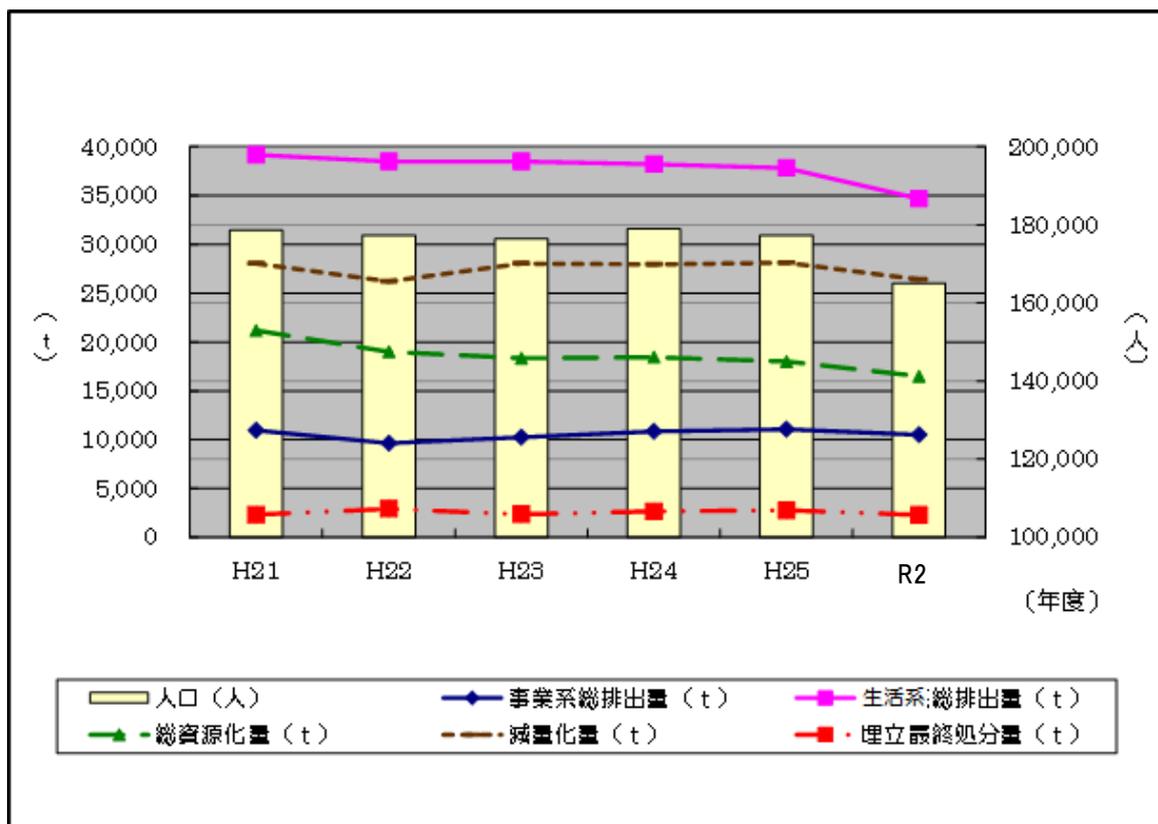
地域の循環型社会形成推進のための施策一覧

施策種別	事業番号	施策の名称	施策の内容	事業主体	事業期間		交付金必要の要否	事業計画					備考
					開始	終了		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
発生抑制再使用の推進に関するもの	11	有料化	減量化が図られない場合は、ごみ袋（家庭系）又は手数料（事業系）の値上げを検討	伊賀市名張市	H27	R 元		値上げの検討					継続実施
	12	環境セミナー、出前トーク等の開催	市民に対し、ごみの分別・再利用の重要性を普及啓発	伊賀市名張市	H27	R 元		啓発活動					継続実施
	13	生ごみ処理容器等の普及	コンポストや生ごみ処理容器等の購入補助金を継続・普及促進	伊賀市名張市	H27	R 元		啓発活動					継続実施
	14	マイバッグ運動とレジ袋削減の実施	事業者等と協力し、マイバッグ運動を普及啓発するとともに、レジ袋の削減を促進	伊賀市名張市	H27	R 元		啓発活動					継続実施
	15	生活排水対策	市民に対し、水質保全の重要性を普及啓発	伊賀市名張市	H27	R 元		啓発活動					継続実施
処理体制の構築、更新に関するもの	21	効率的な収集・運搬体制の整備	民間委託により、経済的かつ効率的な収集・運搬体制の構築	伊賀市	H27	R 元		効率的な収集・運搬体制の整備					継続実施
	22	し尿・浄化槽汚泥処理体制の構築	青山地区のし尿・浄化槽汚泥についても効率的に処理する体制の構築	伊賀市	H29	R 元		施設の整備					
処理施設の整備に関するもの	1	有機性廃棄物リサイクル推進施設整備	(仮称)伊賀市汚泥再生処理センターの整備	伊賀市	H29	R 元	○	施設の整備					
	2	浄化槽設置整備事業	個人設置型の合併処理浄化槽の整備	名張市	H27	R 元	○	施設整備					継続実施(H24～)
	3	浄化槽市町村整備推進事業	市町村設置型の合併処理浄化槽の整備	名張市	H27	H27	○	施設整備					継続実施(H26～)

施策種別	事業番号	施策の名称	施策の内容	事業主体	事業期間		交付金必要の要否	事業計画					備考	
					開始	終了		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度		
施設整備に係る計画支援に関するもの	31	事業番号1の計画支援	測量・地質調査	伊賀市	H27	H27	○	測量・地質						
	31	事業番号1の計画支援	施設基本設計等調査	伊賀市	H27	H27	○	基本設計						
	31	事業番号1の計画支援	生活環境影響調査	伊賀市	H27	H27	○	生活環境調査						
	31	事業番号1の計画支援	発注仕様書等作成	伊賀市	H28	H29	○		発注仕様書					
その他	41	溶融スラッグの有効利用の促進	生成される溶融スラッグを資源としての有効活用促進	伊賀南部環境衛生組合	H27	R元		有効利用の促進					継続実施	
	42	小型家電等リサイクルに関する普及啓発	各種リサイクル法に基づく処理の普及啓発	伊賀市名張市	H27	R元		啓発活動					継続実施	
	43	粗大ごみの戸別収集	粗大ごみを戸別収集し、再生利用を推進	伊賀市名張市	H27	R元		啓発活動					継続実施	
	44	草木類の堆肥化等の促進	事業系草木類の自主的な堆肥化等の処理の促進	名張市	H27	R元		啓発活動					継続実施	
	45	不法投棄対策	監視パトロールの強化	伊賀市名張市	H27	R元		監視パトロールの強化					継続実施	
	46	災害廃棄物処理体制の整備	災害廃棄物処理計画の策定	伊賀市名張市	H27	H28		計画策定						

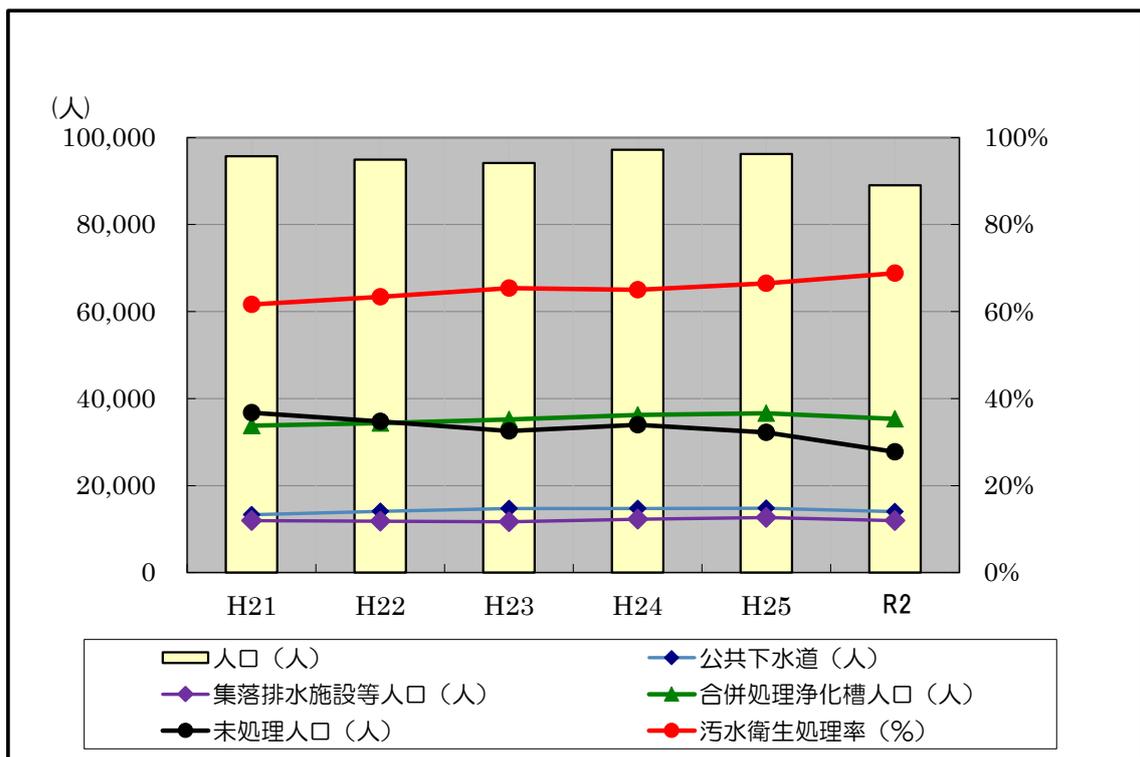
添付資料1 減量化、再生利用の現状と目標（伊賀地域）

指標	年度	現 状					目 標
		H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	令和 2 年度
事業系総排出量(t)		10,958	9,641	10,263	10,836	11,065	10,509
生活系総排出量(t)		39,173	38,498	38,488	38,220	37,827	34,665
総資源化量(t)		21,173	19,004	18,348	18,448	18,008	16,487
減量化量(t)		28,039	26,222	28,039	27,957	28,120	26,394
埋立最終処分量(t)		2,317	2,913	2,364	2,651	2,764	2,293
人 口 (人)		178,611	177,371	176,410	178,950	177,359	164,968



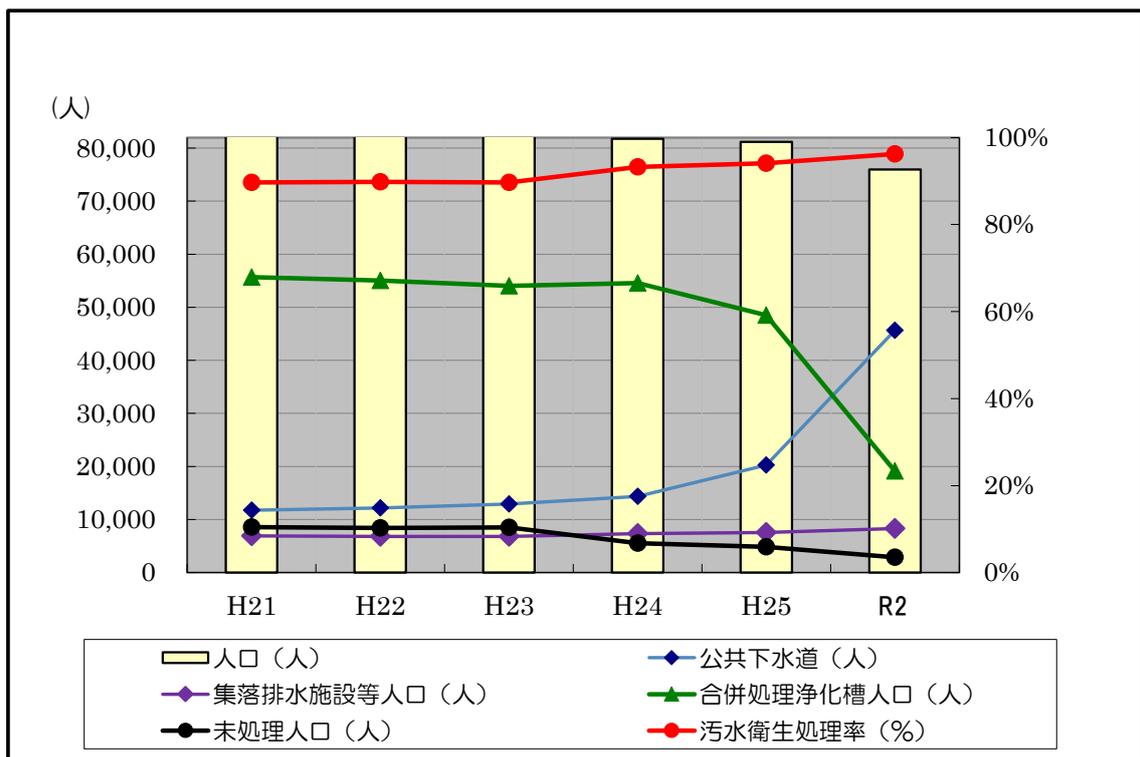
添付資料 2-1 生活排水処理の現状と目標（伊賀市）

指標	年度	現 状					目 標
		H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	令和 2 年度
人 口（人）		95,718	94,907	94,130	97,190	96,187	89,000
公共下水道（人）		13,303	14,048	14,722	14,741	14,773	14,017
集落排水施設等（人）		11,912	11,777	11,658	12,255	12,622	11,946
合併処理浄化槽（人）		33,776	34,331	35,213	36,215	36,613	35,304
未処理（人）		36,727	34,751	32,537	33,979	32,179	27,733
汚水衛生処理率（％）		61.6%	63.4%	65.4%	65.0%	66.5%	68.8%



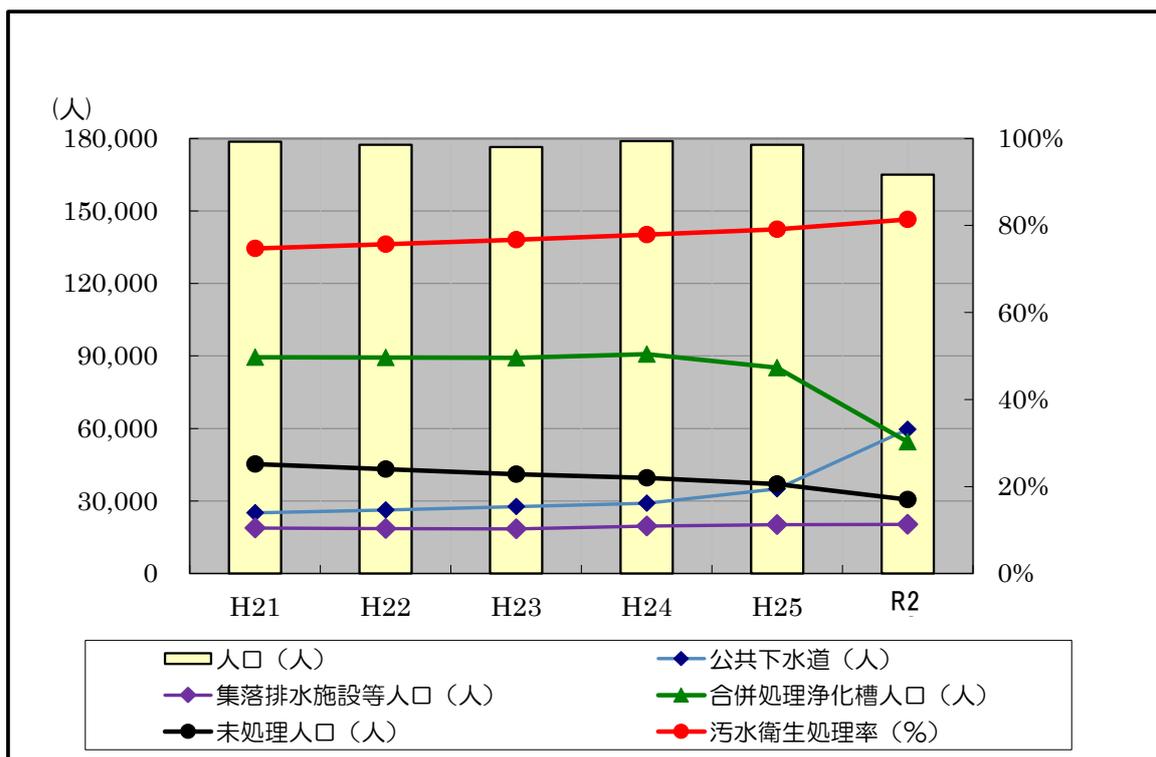
添付資料2-2 生活排水処理の現状と目標（名張市）

指標	年度	現 状					目 標
		H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	令和 2 年度
人 口（人）		82,893	82,464	82,280	81,760	81,172	75,968
公共下水道（人）		11,778	12,166	12,933	14,366	20,273	45,632
集落排水施設等（人）		6,900	6,824	6,823	7,328	7,543	8,319
合併処理浄化槽（人）		55,665	55,067	54,023	54,542	48,530	19,128
未処理（人）		8,550	8,407	8,501	5,524	4,826	2,889
汚水衛生処理率（％）		89.7%	89.8%	89.7%	93.2%	94.1%	96.2%

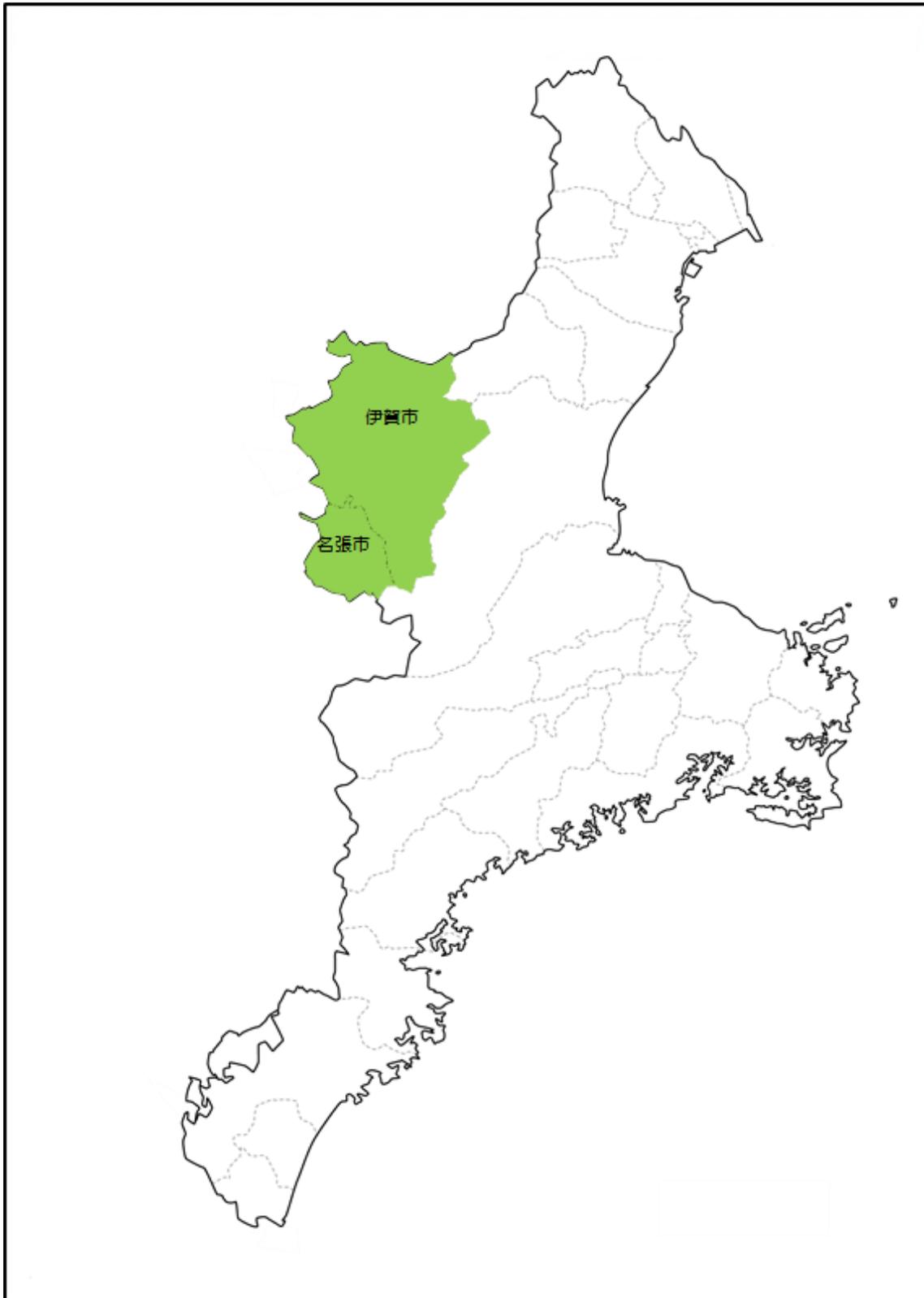


添付資料 2-3 生活排水処理の現状と目標（伊賀地域）

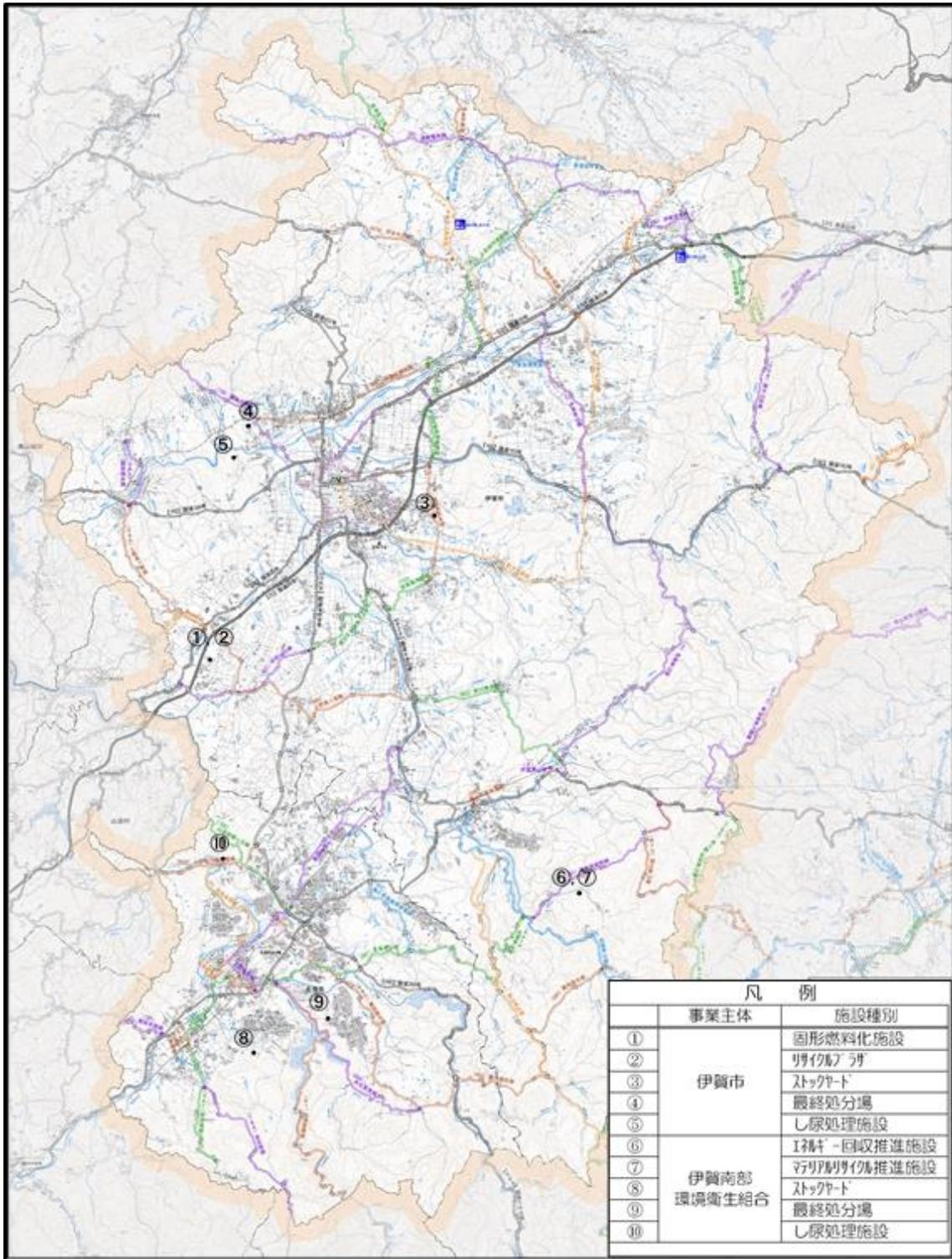
指標	年度	現 状					目 標
		H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	令和 2 年度
人 口（人）		178,611	177,371	176,410	178,950	177,359	164,968
公共下水道（人）		25,081	26,214	27,655	29,107	35,046	59,649
集落排水施設等（人）		18,812	18,601	18,481	19,583	20,165	20,265
合併処理浄化槽（人）		89,441	89,398	89,236	90,757	85,143	54,432
未処理（人）		45,277	43,158	41,038	39,503	37,005	30,622
汚水衛生処理率（％）		74.7%	75.7%	76.7%	77.9%	79.1%	81.4%



添付資料3 対象地域図



添付資料4 現有処理施設の現況（位置図）



添付資料5 分別区分説明資料

【伊賀市】

種 類	分別区分	収集頻度	収集方法	排出容器
燃えるもの	可燃ごみ	週 2 回	ｽｰｼﾞﾝ	指定袋
	硬ﾌﾟﾗ、革製品類	年 6 回	ｽｰｼﾞﾝ	50cm 以下 結束又は袋
燃えないもの	埋立ごみ	年 6 回	ｽｰｼﾞﾝ	45L 以下袋 又は回収箱
粗大ごみ	粗大ごみ	随 時	戸別又は持込	—
資源ごみ	容器包装プラスチック	週 1 回	ｽｰｼﾞﾝ	45L 以下 透明又は半透明
	金属類	月 1 回	ｽｰｼﾞﾝ	45L 以下 透明又は半透明
	アルミ缶			専用容器 (洗浄)
	ペットボトル			回収箱 (洗浄)
	ビン類			結束
	紙・布類	年 6 回	ｽｰｼﾞﾝ	45L 以下 透明又は半透明
	埋立ごみ			45L 以下 透明又は半透明
	廃食油	年 4 回	ｽｰｼﾞﾝ	専用容器

【名張市】

種 類	分別区分	収集頻度	収集方法	排出容器
可燃ごみ	燃やすごみ	週 2 回	ｽｰｼﾞﾝ	指定袋
不燃ごみ	燃やさないごみ	月 2 回	ｽｰｼﾞﾝ	指定袋
粗大ごみ	粗大ごみ	随 時	戸別又は持込	—
資源ごみ	容器包装プラスチック	週 1 回	ｽｰｼﾞﾝ	45L 以下 透明又は半透明
	ビン類	月 1 回	資源ｽｰｼﾞﾝ	ｺﾝﾃ (洗浄)
	缶類			ｺﾝﾃ (洗浄)
	ペットボトル			ｺﾝﾃ (洗浄)
	白色トレイ			ｺﾝﾃ (洗浄)
	紙類	3 ヶ月 1 回	資源ｽｰｼﾞﾝ	結束
	繊維類			45L 以下 透明又は半透明
	廃食油	月 1 回	資源ｽｰｼﾞﾝ	専用容器
	体温計、蛍光管、乾電池、 金属類等			ｺﾝﾃﾅ
	ライター			専用容器

## 施設概要（し尿処理施設系）

都道府県名 三重県

(1) 事業主体名	伊賀市
(2) 施設名称	（仮称）伊賀市汚泥再生処理センター
(3) 工期	平成29年度～令和元年度
(4) 施設規模	処理能力 170kL/日
(5) 形式及び処理方法	浄化槽汚泥対応型脱窒素処理方式
(6) 地域計画内の役割	市町村合併前の処理形態において処理されている伊賀市青山地区のし尿・浄化槽汚泥も本計画施設において適正に処理するとともに、適正な資源化処理を実施する。 なお、し尿・浄化槽汚泥のほかには有機性廃棄物である「農業集落排水事業」及び「コミュニティ・プラント事業」に係る汚泥を併せて処理する。
(7) 廃焼却施設解体工事の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>
(8) 資源化の方法	リン回収
(9) 資源化物の利用計画	肥料原料等として、肥料会社との連携を検討する。
(10) 事業計画額	3,939,063 千円

## 施設概要（浄化槽系）

都道府県名 三重県

(1) 事業主体名	名張市
(2) 事業名称	浄化槽設置整備事業
(3) 事業の実施目的及び内容	生活排水による公共用水域の水質汚濁の防止及び公衆衛生の向上を目的とし、国庫補助指針に適合した小型浄化槽 200 基を整備する。
(4) 事業期間※	平成 24 年度～令和元年度
(5) 事業対象地域の要件	(ウ) 水道水源の流域
(6) 事業計画額	23,250 千円 (35,400 千円)

## ○ 事業計画額の内訳及び浄化槽の整備規模

## 【浄化槽設置整備事業の場合】

区 分	交付対象基数 ( 人分)	うち 単独撤去	基準額	対象経費 支出予定額	交付対象 事業費
5 人槽	40 基 ( 120 人分)	10 基	15,980 千円	8,700 千円	8,700 千円
6～7 人槽	160 基 ( 640 人分)	20 基	68,940 千円	26,700 千円	26,700 千円
8～10 人槽	基 ( 人分)	基			
11～20 人槽	基 ( 人分)	基			
21～30 人槽	基 ( 人分)	基			
31～50 人槽	基 ( 人分)	基			
51 人槽以上	基 ( 人分)	基			
改 築	基				
計画策定調査費					
うち台帳作成費用					
合 計	200 基 ( 760 人分)	30 基	84,920 千円	35,400 千円	35,400 千円

※：本地域計画においては、この事業期間のうち、平成 27 年度から令和元年度を示します。

## 施設概要（浄化槽系）

都道府県名 三重県

(1) 事業主体名	名張市
(2) 事業名称	浄化槽市町村整備推進事業
(3) 事業の実施目的及び内容	生活排水による公共用水域の水質汚濁の防止及び公衆衛生の向上を目的とし、国庫補助指針に適合した小型浄化槽151基を整備する。
(4) 事業期間※	平成26年度～平成27年度
(5) 事業対象地域の要件	（才）山村振興法（昭和40年法律第64号）第7条第1項に規定する振興山村であって、環境大臣が適当と認める地域
(6) 事業計画額	29,050千円（51,522千円）

## ○ 事業計画額の内訳及び浄化槽の整備規模

## 【浄化槽市町村整備推進事業の場合】

区分	交付対象基数 （人分）	うち 単独撤去	基準額	対象経費 支出予定額	交付対象 事業費
5人槽	10基（20人分）	1基	10,200千円	7,000千円	7,000千円
6～7人槽	47基（94人分）	3基	53,298千円	42,300千円	42,300千円
8～10人槽	基（人分）	基			
11～15人槽	基（人分）	基			
16～20人槽	基（人分）	基			
21～25人槽	基（人分）	基			
26～30人槽	基（人分）	基			
31～40人槽	基（人分）	基			
41～50人槽	基（人分）	基			
51人槽以上	基（人分）	基			
事務費等			2,222千円	2,222千円	2,222千円
合計	57基（114人分）	4基	65,720千円	51,522千円	51,522千円

※：本地域計画においては、この事業期間のうち、平成27年度を示します。

## 計 画 支 援 概 要

都道府県名 三重県

(1) 事業主体名	伊賀市		
(2) 事業目的	(仮称)伊賀市汚泥再生処理センターを整備する。		
(3) 事業名称	(仮称)伊賀市汚泥再生処理センター整備事業		
(4) 事業期間	平成 27 年度	平成 27 年度	平成 27 年度
(5) 事業概要	(仮称)伊賀市汚泥再生処理センター整備に係る「測量・地質調査」を実施する。	(仮称)伊賀市汚泥再生処理センター整備に係る「施設基本設計等調査」を実施する。	(仮称)伊賀市汚泥再生処理センター整備に係る「生活環境影響調査」を実施する。
(6) 事業計画額	3,476 千円	7,517 千円	16,675 千円

## 計 画 支 援 概 要

都道府県名 三重県

(1) 事業主体名	伊賀市		
(2) 事業目的	(仮称) 伊賀市汚泥再生処理センターを整備する。		
(3) 事業名称	(仮称) 伊賀市汚泥再生処理センター整備事業		
(4) 事業期間	平成 28 年度 ~ 平成 29 年度		
(5) 事業概要	(仮称) 伊賀市汚泥再生処理センター整備に係る「発注仕様書等」を作成する。		
(6) 事業計画額	9,705 千円		